

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



10月28日のGEN自然と親しむ会は箕面できのご観察。見つけたきのこを囲んで質問が飛び交う。

Contents

- 東北海岸林再生活動 P 2
- カササギの森マツの成長調査報告 P 3
- GENなんでも勉強会オンライン参加者募集 P 4
- あの人この人 P 6
- 黄土高原紀行<16> P 7



GEN公式サイトリンク

2023.11
214

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク



東北海岸林再生活動

9月2日～3日の日程で東北海岸林再生活動のツアーを開催し、10名が参加しました。4年ぶりの開催となり、1日目は工藤寛之さん、2日目はゆりりん愛護会会長の大橋信彦さんにご案内いただきました。

震災の記憶をたどる

上田信 (GEN会員)

9月2日(土) 東京⇒仙台(晴れ)
集合場所となっていた仙台駅3階のみどりの窓口前に行くと、工藤氏が「GEN」と記されたパネルを手に待っている。久しぶりの再会。いまはフリーの写真家として、震災の跡を追っている。
まず、向かったのは地下鉄東西線終着駅の2階に設けられている「せんだい3.11メモリアル交流館」。震災のとき、どこで何をしていたのか、その記憶を記す短冊が並ぶ。そのなかに「福島原発が一言も触れられていない」という記載がある。震災の被害が様でなく、異なる痛みの共有が難しいこ

とを知る。
13:00 震災遺構「仙台市立荒浜小学校」。校舎東側から押し寄せた津波は一階を呑み込み、車などの瓦礫を押し込んだ。屋上に上がり海を望む。震災前は松林が広がり、海は見えなかったという。眼下には客土して復帰した水田に黄金色に色づいた稲穂。深沼海水浴場入り口に残された住宅の基礎。
14:10 仙台湾防潮堤を登ると、砂浜と海が広がる。
14:50 荒浜地区林野庁海岸林。クロマツがすでに3メートルほどに。クズが繁茂。ドクウツギ。15:30に蒲生干潟に。土手を歩き干潟を見学。シラサ

海岸の植栽地、着実な成長を確認

高田直俊 (GEN会員)

頭がゆらゆらする振動を感じ、鳥取大地震の際に経験した長周期振動では、とテレビをつけると東北で地震があり、30分後に津波との予報があった。そのまま地震の報道を見ていたが津波は来ないので、一旦テレビを切ったが、気になるのでまたつけて、津波の破壊力に息を飲んだ。水面の凹凸が移動する普通の波と違って、津波は水底の水まで移動する長波長の流れのため、陸に入ると水面上昇が長時間続いて破壊力が大きい。

仙台駅で参加者7人が集まり、はじ



植栽地の生育状況を確認

めに仙台3.11メモリアル交流館を見学、昼食後に荒浜小学校を見学。ここは2階まで波が入った校舎が震災遺構として保存されている。津波で跡形なしに流された荒浜地区の集落跡を見て、深沼海岸で林野庁の海岸林再生状況を見学した。クロマツを主体に植林されており、よく育っている。珍しく広葉樹の植栽地も生育状態は良い。ただし、一部はクズに巻きつかれて悲鳴が聞こえそうであった。
津波に襲われた蒲生干潟の見学もプログラムに入っていた。私個人は昔から興味を持ってここを何度か見てきた。海岸には砂浜があり、その背後が潮の干満が入る後背湿地になっている。津波でどうなったのか気になってGoogle Earthを開いてみると被災直後の写真に更新されており、砂浜は一面が平坦地になり、背後にあった古い集落やそれに続く住宅はすべて流され

ギが津波で漂着したコンテナの上で羽を休めている。

3日(日) 仙台(晴れ)⇒東京
名取市サイクルスポーツセンターに。10:00ごろ「ゆりりん愛護会」の大橋氏と合流。芝生の一角で、6本のクロマツの苗を植える。芝をスコップで剥がしてから掘り進むが、石に阻まれ、なかなか作業ははかどらない。
造林地見学。阿武隈川河口まで南下。防潮堤に上り、造林地を見通す。みっちり隙間なくクロマツが育っている。桜井さんと高見さんが造林地の一角に踏み入る。宮脇式の植林も、林野庁の砂地の植林も、いずれもちゃんと育ち、樹冠が閉じて下草はなかったという。愛護会の植林地に向かう。8年ほど育ったマツ。

震災の記憶は風化するかもしれない。しかし、植物はちゃんと育ち、将来にメッセージを運んでいる。



コンテナがサギの憩いの場

ていた。今回見ると小学校を含む背後の住宅地は工業地帯になり、巨大なバイオマス発電所がそびえ立っていた。干潟は自然の力で元の形に回復しており、植生未発達な干潟面には秋に赤くなる塩生植物(ハママツナ)が一面に生えていた。干潟に期待したシギ・チドリはほとんどいなかった。ここでも高い防波堤が作られていたが、干潟保護の会が陸側にいくらか立地を変えさせている。仙台駅に近いホテルに入り、夕食は居酒屋で地元の方も交えている話を楽しんだ。

2日目は仙台空港に近い名取市の関上の海岸林植栽の見学で、名取川から南の阿武隈川に至る海岸のクロマツ植栽を見学し、このレジャー施設であるサイクルスポーツセンターの庭に記念植樹としてクロマツを植えた。

海岸林復活のための植栽クロマツは、いずれの地域もよく育っているが、密植のためやがて間伐が必要になる。

カササギの森 マツの成長調査報告

前中久行 (GEN代表)

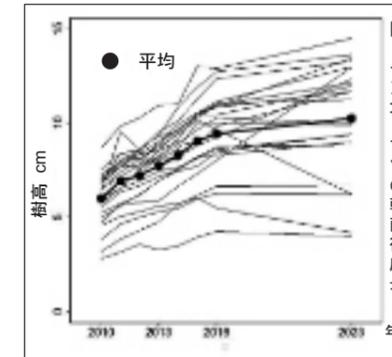
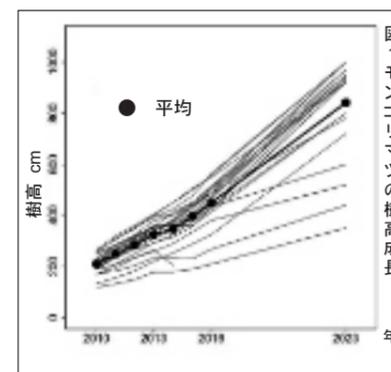


丸枠のマツが調査対象

コロナ感染の状況が落ち着いて2019年以後でできなかった中国訪問が4年ぶりに実現し、気になっていた植樹地のその後の状況が確認できました。張家口市蔚県ではこの4年間の植樹が計画通りに実施されていてその後の成長も順調なことを確かめました。大同市では「カササギの森」一帯が緑の大地に変貌していることを再確認しました。

「カササギの森」は「実験林場」とも呼び新しい多様な植物の植栽実験を含めて植樹した場所です。ここでモンゴリマツやナラの大きさを現地測定してきました。その資料によって現時点での樹木成長状態をお伝えします。

モンゴリマツ(*Pinus sylvestris* var. *mongolica*)の中国名は樟子松です。自生地は大同よりも北方の地域ですが、幹が通直なので大同の北部ではよく植樹されています。大きさを測定したのは2002年に植樹された場所です。ほぼ4m×2m間隔に植えられており、1haあたり1250本の密度です。2010年以後2016年までは毎年幹の直径と樹高を測定していました。今回は期間があいて7年ぶりの測定で、現地滞在時間の関係で今回測定したのは23本です。これ



平均幹直径は2010年の6.0cmが2016年には9.4cm、2023年には10.1cmになり、太いものは19cmになりました。

2016年以後の幹直径の成長をみるとそれ以前にくらべるとやや鈍化傾向があります。枝張面積が大きくなり樹木間で太陽光の相互遮蔽が始まっている可能性があります。

黄土高原の元々の植生がそのようなものであったかは判然としませんが、高原部分に接する山地の下部は、ナラを主体とする植生であったと想定しています。そこで「カササギの森」ではモンゴリナラ(*Quercus mongolica*)の植樹をしています。中国名は蒙栎です。モンゴリナラの列と油松の列を交

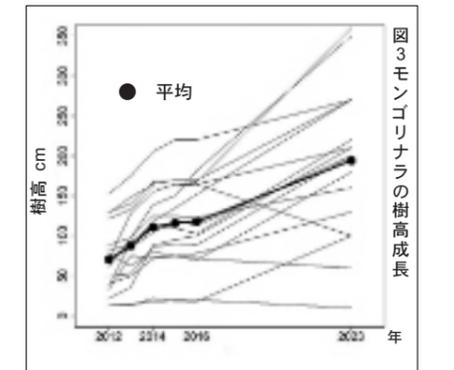
に対応する場所の2010年の樹木数は24本なので枯れたのは1本だけとなりました。写真は2023年8月のカササギの森の状況です。モンゴリマツが高さ10m程度までに育っています。すでに下枝おろしされていることが確認できます。取った枝葉は地元の燃料として役立っているのでしょうか。

個々のモンゴリマツの樹高とその平均値の経時的成長が図1です。2010年の平均樹高210cmが2016年には447cm、2023年には841cmになりました。2018年以後の平均では1年間で55cm程度成長していることになりました。大きなものは約1000cmになりました。樹高は順調に成長しています。今後の継続な成長に期待が持てます。

個々のモンゴリマツの幹直径(樹高の10%の高さにおける直径に換算)とその平均値の経時的成長が図2です。

互に配置して2003年に植樹しました。2012年に測定開始して、2016年まで毎年測定していました。今回は7年ぶりの測定です。モンゴリナラ17本について測定しました。モンゴリナラは株立ち状態になり一本一本の幹直径の測定が困難で、株全体の樹高だけを測定しました。

個々のモンゴリナラ樹高とその平均値の経時的成長が図3です。平均樹高



は2012年の70cmが2016年には118cm、2023年には194cmになりました。2014年から2016年頃にかけて樹高成長が鈍化した時期がありますが、2016年以後は成長再開の傾向が読み取れます。モンゴリナラの樹高成長は比較的緩慢で年によって差がありますが、確実に成長を続けています。すでに果実(ドングリ)の着果を確認しています。地表に落葉が堆積して保水性が高まれば着地したドングリからの芽生えで天然更新も期待できます。

モンゴリマツ、モンゴリナラともに荒地を緑に回復するという初期目的は達成されたと思います。

モンゴリマツについては、樹木間の競争が始まっている傾向があります。次の段階として、場所毎に森林生態の回復、木材生産、下枝の燃料利用など地元が望む目的に応じてそれぞれに適した管理手法を考える時期になったのでしょうか。

上記とあわせて大同を取材した新華社の記事 (<https://onl.sc/ACYMpYY>) もぜひお読みください。



参加者募集 GENなんでも勉強会オンライン 参加費無料で毎月開催。ぜひお気軽にご参加ください。右のQRコードからお申込みいただけます。



第26回 11月開催

「みんなの自然」を求めて



「コモンズ」「万人権」などをキーワードに、人と森の関係について考えてみませんか。

国土の三分の二が森林の日本。身近なはずの自然ですが、近年人と自然のつながりは失われつつあります。つながりを再生するための取組みを続けておられる齋藤暖生さんにお話を伺います。

○日時：2023年11月22日（水）19時～20時30分ごろ

○手段：ウェブ会議システムZoom

○講師：齋藤暖生さん（東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林講師）

○参加費：無料（先着順）

○定員：100名

○申込：以下のいずれかの方法でお申込みください。

①11月20日（月）までにメール（gen@gen-tree.org）またはGENのホームページより申込む。メールの場合は件名を「11月勉強会参加希望」とし、本文にお名前を記入してください。

②11月21日（火）までにイベント管理サイトPeatixより申込む（https://gennandemo26.peatix.com/）

第27回 12月開催

気候変動と生物多様性 地球温暖化現象がもたらす 生き物や生態系への影響



地球温暖化に直面するいま、これまでのように生物多様性は維持されつづけるでしょうか？ 植物の移動のメカニズム、

さらには現在の地球温暖化の特質を知り、生態系への影響、わたしたちが取るべき行動について考えます。

○日時：12月18日（月）19時～20時30分ごろ

○手段：ウェブ会議システムZoom

○講師：片山雅男さん（認定NPO法人環境市民理事・元神戸教育短期大学教授）

○参加費：無料（先着順）

○定員：100名

○申込：以下のいずれかの方法でお申込みください。

①12月14日（木）までにメール（gen@gen-tree.org）またはGENのホームページより申込む。メールの場合は件名を「12月勉強会参加希望」とし、本文にお名前を記入してください。

②12月17日（日）までにイベント管理サイトPeatixより申込む（https://gennandemo27.peatix.com/）

第28回 2024年1月開催

「森林の訪問・体感利用」

森林政策の研究者でマウンテンバイクが趣味の平野悠一郎さんに、森の楽しみ方などをお話いただきます。

○日時：2024年1月29日（月）19時～20時30分ごろ

○講師：平野悠一郎さん（森林総合研究所）

○手段：ウェブ会議システムZoom

○参加費：無料

詳細は次号でお伝えします。

ご参加ください 運営懇談会

運営懇談会は、年に一度GEN会員が集い、GENの活動について自由に議論する場です。今後の活動のあり方について、ぜひみなさんのご意見をお聞かせください。

今年もオンラインと会場を併用しておこないます。

○日時：2023年12月9日（土）13時30分～16時30分ごろ

○参加方法：会場またはオンライン

○会場：大阪産業創造館5階研修室D（大阪市中央区本町1-4-5 大阪メトロ中央線・堺筋線「堺筋本町」駅より徒歩5分）

○参加費：無料

○参加方法：参加を希望される方は12月6日（水）までに表題を「運営懇談会参加」としてGENまで（gen@gentree.org）メールをお送りください。メール送付の際、会場での参加かオンラインでの参加かをお知らせください。参加をお申込みの方には後日メールにてZoomの案内をお送りします。案内が届かない場合は12月8日（金）午前中までにGEN事務所までご連絡ください。

報告 また見たい、黄土高原の原風景

西島 文敬さん（GEN会員）

8月30日（水）、GENなんでも勉強会オンライン「4年ぶりの中国訪問報告会」をおこない、45名が参加しました。報告会の様子はYouTubeで公開しているほか、会員の方はGENウェブサイトの「会員さま限定ページ」で質疑応答部分までご覧いただけます。YouTubeへは右下のQRコードからお入りいただけます。

コロナ禍の中、盛んに開催されていたオンライン勉強会になかなか参加できなかったのですが、久しぶりに中国訪問の報告会があるというので心待ちにしていました。

コロナによる中国渡航への様ざまな情報が飛び交っていますが、煩雑な取得や、入国申請などはハードルが高いですね。指紋採取も何回かありましたが、databaseに残ってないので、北京—福岡の間に仁川空港で一晩明かしたことがあります。

高見さんの報告大変興味深く聞かせていただきました。中国では大雨の被害

が出てるといふ報道がありますが、雨といえば南天門植物園で突然の豪雨に会い、帰りの道路に土砂が流れて立ち往生したことや、最後に行った張家口市蔚県の西窰頭村の話で、村では瓦を生産していたけれども、ある大雨の年にこの村で作った瓦がごとごとく品質が悪くて役に立たなかった。そこで全く売れなくなり、廃業したと聞いていたことを思い出します。その後瓦を焼いていた跡地など見て回りました。今回の大雨で、また多くの窰洞が潰れたことでしょうか。カササギの森の管理棟の周りに廃墟になった窰洞がいくつもあり、中まで入って見ることがで

きました。高田さんの報告の中に窰洞がたくさん並んだ写真がありましたが、これとのろし台が黄土高原の原風景の一つだと懐かしく拝見しました。

最近の情報では、外国人でもアリエイが使えるようになったとのこと。早い時期にまたGENのスタディツアーに参加したいと強く思っています。



窰洞の奥には風力発電

報告 気候変動が歴史を動かす

城野 宜臣さん（GEN会員）

9月28日（木）、GENなんでも勉強会オンライン「気候変動が中国古代文明の歴史を変えた～それは黄土高原から始まった」をおこない、45名が参加しました。講演部分はYouTubeで公開しているほか、会員の方はGENウェブサイトの「会員さま限定ページ」で質疑応答部分までご覧いただけます。YouTubeは右下のQRコードから入れます。

9月28日（木）のGENなんでも勉強会オンラインは、「気候変動が中国古代文明の歴史を変えた～それは黄土高原から始まった～」と題して淑徳大学文学部歴史学科教授の村松弘一さんにお話いただきました。

参加者は45名と多く、専門家の方もおられ、この問題に対する関心の深さがうかがわれます。

気候変動はつねに繰り返されており、それはまず動物や植物に影響を与えます。さらに動物や植物に依拠して生活している（農業・牧畜）人間の活動に影響を与え文明の盛衰も左右するということを多くの遺跡の紹介とともにわかりやすく解説されました。

まずB.C. 5000年からB.C. 3000年は古

代文明が誕生した時代ですが、最温暖期にあたり黄河流域では仰韶文化、龍山文化、長江流域では河姆渡文化・良渚文化が栄え、さらに黄河中流域に夏王朝、殷王朝があいついで興りました。

B.C. 2000年ころに急激な乾燥化／寒冷化が起こり稲作にダメージを受けて長江文明が崩壊しました。

その後、乾燥化、温暖化を繰り返しますが、A.D. 2世紀以降の寒冷化により北方の草原が減少し、匈奴が南下し漢王朝の崩壊、ローマ帝国の衰退まで引き起こしました。

このような過去の気候変動は自然環境の変動によるものですが、黄土高原の植生消滅は（明代以降の）人間の

活動による結果です。砂の「砂漠」は回復できませんがサンズイの「沙漠」は人の手によって回復できることはGENの活動が証明しています。GENの活動の意義を再確認させていただけた勉強会でした。

新作配信しています GENチャンネル

GENの高見副代表が大同での緑化協力について語るYouTubeのGENチャンネル、だいぶお休みしていましたが、配信を再開しています。#21「4年ぶりのカササギの森」 #22「カササギの森の出発点」 #23「森林再生に多様性を追求」 #24「口泉植物園その①」 #25「口泉植物園その②」を新たにアップしました。4年ぶりに訪問した中国で目にした緑化協力地の現在のようすについて写真とともにお伝えしています。GENチャンネル（https://www.youtube.com/@gen3845）は右のQRコードよりアクセスできますのでぜひご覧ください。



年末寄付のお願い

7月の会報で夏季寄付を呼び掛けたところ、たくさんの方にご協力いただき大変感謝しております。

2023年は4年ぶりにスタッフが中国を訪問することができ、現地の植栽地の成長を確認することができました。コロナ後も失われた森林を回復させるための活動を続けていくほか、国内での活動も充実させていき

ます。活動の継続のため、ご無理のない範囲で年末寄付へのご協力をお願いいたします。

発送作業の都合上、郵便振替の用紙を一律に同封します。最近ご協力いただいたかたには重ねてのお願いではありませんのでご了承くださいますようお願いいたします。

クレジットカードでの寄付も可能です。詳細はGENのウェブサイト（https://gen-tree.org/support/）をご覧ください。



あの人 この人

「あの人この人」では、個性豊かなGEN会員のあれこれをご紹介します。今回は牧野佳歩さん。学生時代のインターンシップがご縁でツアーにも参加し、社会人になった現在も会員を続けてくれています。

このコーナーではご自身を紹介してくださるGEN会員を募集しています。また、「会員のこの人を紹介してほしい」という方がいましたらぜひGENまでお知らせください。

牧野 佳歩さん（福岡県）

簡単に自己紹介をお願いします。
福岡で会社員をしている牧野佳歩と申します。会社では、主に太陽光発電所の開発や工事管理を行っています。実家は大阪にあり、学生時代までは大阪に住んでいました。

・いつからGENに参加しましたか？
2017年にGENのインターンに参加しました。GEN事務所で事務作業などをおこないました。また、2019年のスタディツアーに参加しました。
・GENに入ったきっかけは？
大学2年生の夏休みにインターンとして受け入れていただいたことがきっかけです。その1年後、黄土高原スタディツアーにも参加しました。
・印象にのこっているGENの活動は何ですか？
インターンの際に事務所でみなさんとお話したことも楽しかったですが、スタディツアーで見た、当時の中国農村部の状況や緑化の成果も非常に興味深かったです。
また、当時はほぼ海外に行った経験がなかったため文化や言語の壁に戸惑いしましたが、それらを乗り越えるべく踏ん張る姿勢は、今の仕事やその後の海外旅行でも活かされています。
・GENの良いところは？
実行力と継続力。私はGENの歴史のわずかしか垣間見れておりませんが、日本にはないようなスケール、条件の土地で緑化を着実に進めているところ

は本当に尊敬します。また、緑化が完了すればそれまでのつながりを生かして次の緑化先を探すなど、活動への執念も感じます。
・逆に悪いところは？
PR力、でしょうか…。コロナ禍を経て従来よりもかなり多様な手法で会員向けコンテンツを発信されていると思いますが、今は会員ではない人々に向けても発信を行い、「中国での緑化・交流といえばGEN」と家族や同僚、友人に話しても納得してもらえようなどと考えています。
・GENに期待すること
コロナ後の混沌、財政難、人手不足など困難がたくさんあるかと想像しますが、どうかこれまでのカウンターパートとのつながりを絶やさずに、細々でも交流を続けていってほしいです。
・会員のみなさんへひとこと
近年はリアルでのイベントには参加できておりませんが、いつか総会などで皆さんにお会いして直接お話しする機会があれば嬉しいです！



いますぐできるGENへの協力

■会員の輪をひろげよう！
緑の地球ネットワーク会費（年額）
一般会費 12,000 円
家族会費（同居の家族2人目から） 6,000 円
学生会員 3,000 円
ジュニア会員（中学生以下） 1,000 円
団体会員 12,000 円
賛助会員 100,000 円
※会費は会報購読料を含んでいます。
■会報を購読してください！
GENの活動に関心はあるけれど会員になるのはちょっと、という方は、会報『緑の地球』を購読していただけますか。年間購読料2,000円。
■緑化資金、運営寄付もとむ
金額は自由です。また、緑化資金、運営寄付の別を問わない用途自由のご寄付も受け付けます。その場合、必要に応じて使わせていただきます。

*緑化資金の20%は事務管理費になります。
■書き損じはがきを集めています
書き損じはがき、古い未使用のはがきを集めています。通信費にあてます。
■未使用切手・古切手を集めています
普通切手、記念切手、外国切手なんでもOK。古切手は周囲を1cmほど残して切り取ってお送りください。
■ボランティア募集
会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。参加可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときにGENから連絡します。
* * * * *
【GENへの寄付は税制上の優遇措置を受けられます】
緑の地球ネットワークは大阪市に認定された認定NPO法人です（期限は

2024年4月8日まで）。
個人によるGENへの寄付は、税額控除あるいは所得控除を受けられます。対象となるのは2,000円を超える寄付金で、確定申告が必要です。
企業からの寄付金は一般寄付金の損金算入限度額とは別枠の損金算入限度額が認められています。
また、個人が相続または遺贈により取得した財産を、相続税の申告期限以前に認定NPOに寄附すると、相続税の課税対象から除外されます。
GENの場合、寄付金となるのは緑化基金、運営資金、おまかせ寄付と会費のうち1口を超える部分、賛助会費から12,000円を引いた金額です。
大阪府民、大阪市民の方には個人住民税の控除もあります。くわしくはGENまでご連絡ください。

黄土高原紀行<16> 五、五台山めぐり（2）

8月21日（水）。昨夕の霧雨とは打って変わり、今日は早朝より晴れ。
ホテルを出て、左手に塔院寺の巨大な白塔をながめつつ坂道を専用バスで上ってゆくと、小高く突き出た台懷靈鷲山にいたる。別名ここを菩薩頂（ぼつさうてい）というは、文殊菩薩の在す処と考えられたからだ。ここに立つと、五台のすべてが遠望できる。
前回のせた写真は、駐車場から遙かにのぞんだ北台・中台・西台方面。山頂近くが草地なのは、高所で寒冷という理由のほか、強風ゆえ樹木が育たないからだ。それ以下は、麓まで鬱蒼たる樹林におおわれている。
さて、菩薩頂の北側にある駐車場でバスを降りた関係で、菩薩頂の中央に建てられた真容院には後門から入ることになる。この寺が真容院とよばれるのは、はるか昔、文殊菩薩が真の姿をここに現わしたからだという。われわれがこのあと行く予定の顯通寺の一部だったが、明代に独立したらしい。
入場料90元（約1350円）と、中国の諸物価からみて、べらぼうに高い。
線香の煙にむせながら、参詣人・観光客をかきわけつつ、文殊殿・前殿・天王殿と進んでゆく。伽藍は清代の重修で、屋根を瑠璃瓦で葺いている。文殊殿と向い合って石坊が立ち、康熙帝（こうぎてい）（1661～1722在位）の御筆で「五台聖境」とある。
清の太祖ヌルハチ（1616～26在位）は、出身の部族をマンジュ（満州）とよび、その国をマンジュ・グルン（満州国）と称したが、「マンジュ」はもともとマンジュシリ（文殊師利）から出る。中国東北部のツングース系民族に文殊信仰が広がっていたことに由来しよう。清朝の皇帝は文殊菩薩の化身とされ、チベット仏教の第5代ダライ・ラマは、太祖ホンタイジ（1626～43在位）を尊んで曼殊師利大皇帝とよんだ。康熙帝は5回、孫にあたる乾隆帝（けんりやうてい）（1735～95在位）は6回、五台山に詣でている。

谷口 義介（GEN会員）

山門のまえには、これも康熙帝の御筆になる「靈峯勝境」の牌楼。眼下には、急な石段。全部で108段あるという。つまり、この石段を下から上りつつ108つの煩惱（ぼんのう）を捨て去り、山門をくぐって天王殿、前殿そして文殊殿にいたる、というのが正しい順路だろう。
われわれのように、クルマで来た今ふうの観光客は駐車場の関係で後門から入ったわけだが、実をいうとこれは邪道（写真）。
余人は知らず私などは、かくして瞋恚（しんい）（怒り）・無明（無知）をはじめとする108つの煩惱にまみれることになるのだろうか（まったく自覚のない言い方だが）。
南方前面にふたたび塔院寺の白塔を見るが、それは後回し。道を西側に折れて、まず顯通寺に行ってみる。
北魏の孝文帝によって創建されたといわれる大雲寺が、唐代には大華嚴寺とよばれ、その規模は五台山で最大となり、明代に今の名称

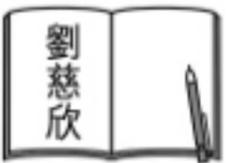


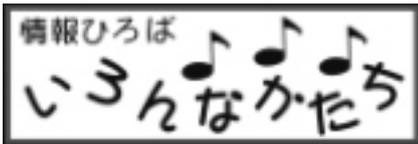
万年中国語学習者のつばやき

前号で山西省出身の映画監督を紹介しましたが、作家もいます！ SF作家の劉慈欣は3歳から山西省陽泉市で育ったそう。代表作「三体」は中国SFの最高傑作と言われ、世界中で読まれている大ヒット作なのでご存じの方も多



京留学中だったGEN会員のTさんに頼んで買ってきてもらい、辞書を片手に夜な夜な楽しく読み込みました。ゲームに関する単語などは辞書を引いてもいまいちピンとこないところがありましたが、ストーリーの面白さのおかげでぐいぐい読み進めることができました。2019年には日本語講座で作品の一部が紹介されてから続きが読みたくはうれしくて思わず話しかけそうになりました。（河本）





南京の記憶をつなぐ2023
ドキュメンタリー上映／講演
南京のりびとを救った外科医

日本軍占領下で南京に残ったただ一人の外科医ウィルソンのドキュメンタリー映画上映のほか、南京生まれの高文軍さんが抗日戦争を戦った父親の記憶と自身の経験を語ります。

- 日時：12月9日（土）14時～（13時30分開場）
- 会場：エルおおさか南館5Fホール（大阪メトロ／京阪電鉄「天満橋」駅より西へ300m）
- 内容：ドキュメンタリー映画『ウィルソン医師－南京孤独のたたかい』／講演「私と南京－歴史、大虐殺の事実調査、戦争中の父」高文軍さん（元桜花学園大学教授）
- 資料代：1,000円
- 主催・問合せ：南京の記憶をつなぐ2023（tel.090-8125-1757）

ワン・ワールド・フェスティバル
for Youth 2023

日本最大級の高校生による国際協力・SDGs・多文化共生フェスティバルです。今年の開催テーマは「響き渡れ、多彩な音色」

○日時：12月17日（日）11時～16時
○会場：会場・オンラインのハイブリッド開催。会場は大阪YMCA（大阪市

* 当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
* 当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

西区土佐堀1-5-6 大阪メトロ「肥後橋」駅下車徒歩5分）一部プログラムはオンライン配信予定（事前申込必須）

- 参加費：無料
- 申込方法：ワン・ワールド・フェスティバルfor Youthホームページ内の参加フォームより事前にお申込みください。
- 主催・問合せ：（特活）関西NGO協議会（〒530-0013大阪市北区茶屋町2-30 4階 tel.06-6377-5144 URL <http://owf-youth.com>）

※出荷：12月15日～2月下旬
※送料別途。20kgまで関西1,000円、関東・甲信越1,100円
ご注文は
〒781-7412 高知県安芸郡東洋町大字河内203 田中農園 田中隆一さん（tel./fax. 0887-29-2500 e-mail: tanakan3@cronos.ocn.ne.jp）
※売り上げの一部を寄付していただいています。ご注文の際は一言「GENの紹介」と添えてください。

第29期
自然大学参加者募集

- 期間：2024年4月7日～2025年3月2日（全14回。原則日曜日開催）
- 定員：30名（18歳以上、先着順）
- 受講料：40,000円（交通費、宿泊費、野外実習の経費等別途）
- 講師：渡辺弘之氏（京都大学名誉教授）、伊藤孝美氏（NPO法人自然と緑理事長）、鳥居篤史氏（森林総合研究所関西支所）
- 申込み方法：郵送またはファクスでお名前、生年月日、性別、職業、住所、趣味・特技、電話番号、携帯電話、e-mailを明記のうえ下記まで。
- 主催・申込み先：NPO法人自然と緑（〒540-0006大阪市中央区法円坂1-1-35アネックスパル法円坂4F tel. 06-6809-1700 fax. 06-6809-2702 e-mail: info-sm@shizen-midori.org）

おいしいポンカン
いかがですか

- ★甲浦ポンカン（低農薬・動物性有機肥料のみ使用、消費税が別途かかります）
- 【歳暮・贈答用化粧箱入り】
- A 2L/3L 5kg 30個前後 4,200円
- B 2L/3L 5kg 20 // 2,800円
- C L 5kg 35 // 3,700円
- 【普通箱入り】
- D 2L/3L 5kg 30 // 3,800円
- E 2L/3L 3kg 20 // 2,500円
- F L 5kg 35 // 3,300円
- 【家庭用】
- G 5kg 33 // 2,800円
- ★ゆず酢 4号瓶2本入り 4,000円
- ★無農薬 ゆず玉 2kg 1,600円
- ★みかん山の蜂蜜 600g 3,000円
- 1.2kg 6,000円

会費・購読料・寄付・物品・ボランティアなど協力者のお名前（'23.9.8～'23.11.1、50音順、敬称略）